

白銅通信

TOPICS ▶

小口・生産材の
コンビニエンス・ディーラー

2005年 盛夏

Hakudo
Tsushin Vol.17

<特集1>

真夏の涼はノドごしで。
枝豆をつまみに
キューッと冷えたビールで乾杯!

<特集2>

うちわ片手に浴衣姿で夕涼み。
そして、郷愁を誘う蚊取り線香の香り……。
夏の縁側には「蚊遣りフタ」がよく似合う

白銅のある街

白銅からのお知らせ

特集 1

真夏の涼はノドごしで。 枝豆をつまみにキューッと冷えたビールで乾杯!

ビールのおつまみと言えは、まず思い浮かぶのは枝豆ですが、実はビールと枝豆の相性はとてもいい組み合わせでしたか?

ひと仕事を終えた後にキンキンに冷えたビール、「これぞ極楽」と言えますね。あのノドごしの快感を楽しみに仕事を頑張るといふ方も多いのではないのでしょうか。

ところで、ビールのおつまみは何がお好きですか? まず思い浮かぶのは枝豆でしょう。この「枝豆」と「ビール」はとても良い組み合わせなのだそうです。

枝豆は大豆の未熟な種子を若採りしたものです。枝付きのまま塩ゆでにし、枝を持ってサヤをちぎりながら食べたことから「枝豆」と呼ばれるようになりまし

た。枝豆は「畑の肉」大豆の若い豆なので、栄養成分も大豆に似ています。大豆にはないビタミンCが豊富で、むしろ大豆以上のパワーを秘めています。

また、ビールとの相性がいいの

かと言うと、その秘密は「大豆サポニン」と「メチオニン」にあります。大豆サポニンは肝臓の機能を良くしてくれ、アミノ酸の二種メチオニンがアルコールを分解してくれるのです。まさに、ビールの

おつまみには打ってつけですね。さらに、注目したいのはカルシウム、鉄などのミネラルも豊富なことです。枝豆は良質のたんぱくに

加え、緑黄色野菜の優れた要素も備えているわけです。また、枝豆のポリフェノール「イソフラボン」とビールのポリフェノール「イソフムロン」が生み出す女性ホルモン作用により、肌荒れ



冷え性、肩こり等の更年期障害の症状を緩和する効果もあるというのですから、女性に

も嬉しいですね。一方のビールですが、古代エジプトやメソポタミアでは、流行病の予防や治療薬として用いられていました。ビールのことを「液体のパン」と呼んでいたくらいです。日本でも明治初期には薬局で売られていました。

よく、「ビール腹」と言いますが、ビールは決してカロリーが高い飲み物ではありません。普通のビール200gあたりの熱量が三九キロカロリーなのに、食パンは二六〇キロカロリー、飯は二四八キロカロリーです。ビール腹の原因は、おつまみの食べ過ぎや、ほろ酔い気分が食が進んでしまうことにあるようです。

最後に、ビールの泡についてお話ししましょう。かつて、泡の量を多くして暴利を食っていたと、ピアホールが訴えられたことがあり

ます。判決は無罪。醸造学の権威である坂口謙一郎博士の鑑定書には、「ビールの泡は二五、三〇%が適当」と書かれています。泡にはビールの酸化を防ぎ、炭酸ガスを逃さない重要な役割があるのです。

それでは、みなさんお疲れ様。乾杯!

うちわ片手に浴衣姿で夕涼み、 そして、郷愁を誘う蚊取り線香の香り…… 夏の縁側には「蚊遣りブタ」がよく似合う。

薄あがりの縁側、花火を楽しんだ庭先、そして蚊遣り線香を使った和室。日本の夏の夜のシーンには、いつも薄あがりの蚊遣り線香とブタの香りがありました。今回は、あの爽やかな「蚊遣りブタ」のお話です。

殺虫剤が普及し、気密性の高いアルミサッシのマンション住まいが増えて、「蚊取り線香」を使っている家庭もめっきりと減ってしまいました。今ではあまり見かけなくなりましたが夏の風物詩ですが、あの蚊取り線香の香りは、遠く離れた昭和の時代を思い起こさせてくれます。ところで、渦巻きの蚊取り線香を入れる陶器にブタが多いのはどうしてでしょう。

あの香炉を「蚊遣り」といい、ブタの形をしているので「蚊遣りブタ」といいます。歴史も古く、由来にも諸説あります。江戸時代の武家屋敷跡から見つかったこともあるので、江戸時代には使われていたのかもしれないかもしれません。しかし、蚊取り線香が生まれたのは明治に入ってからで、それまでは木の葉やミカンの皮を燃して、蚊を追

いやっていました。「蚊遣り」はその草を燃やすための器です。初めは土管を使っていましたが、煙が出すぎるので口を小さくしたところ、その形がブタに似ていたそうです。そこで蚊遣りがブタの形になったというのが通説です。そのほか、蚊取り線香が普及してから養豚場でも土管に置いて使うようになり、常滑の焼物業者が少しづつ煙が出るように工夫した結果いまの形になって全国に広まったという説もあります。また、元はブタではなくイノシシだったという説もあります。これはイノシシが火伏の神で、火災除けの意味があるからです。

蚊遣りは蚊を追いかけることではなく、殺虫効果はありません。より強力な蚊取り線香が発明されたのは、明治18年「金鳥」の創業者である上山英一郎がアメリカ人H.E.アモアから除虫菊の種を手に入れたことが発端です。最初は除虫菊を粉末にして燃やしたり、従来の蚊遣りの方法で使っていたようです。その後、英一郎が東京で線香屋と同居していたこともあり、線香に練り込むことを思いつき蚊取り線香が誕生しました。ただ、数十分しか持たないという欠点がありました。これでは線香の火を絶やさないと二晩中起きていなくてはなりません。そこで、「渦巻状にすれば」というアイデアを夫人が出し、長時間保てる現在の形になったそうです。

いまではマット型や液体型の電子蚊取り器が主流となりました。でも、コマーシャルでもお馴染みのように、「日本の夏」はやはり蚊取り線香ですね。

白銅のある街 2



日本の元気印・名古屋

白銅の名古屋営業所は、名古屋駅から徒歩数分の交通至便なところにあります。今春には中部国際空港セントレアが開港し、愛・地球博が開催されるなど、日本で一番元気な東海地方の中心都市です。

「尾張名古屋は城でもつ」と言われるように、街のシンボルは今も昔も「名古屋城」、そしてその上に鎮座する「金鯱」です。関ヶ原の戦いで家康が天下を取り、この地に築城工事を始めたのは慶長15年(1610)のこと。以来、徳川御三家筆頭の城下町として発展してきました。残念ながら第二次世界大戦の名古屋空襲により、天守閣、本丸御殿、そして金鯱も消失しましたが、昭和34年に再建されました。ところで、この金鯱に懸念あるのはご存じでしたか？ 北側が雄、南側が雌です。白銅のこだわりで見ますと、雄は高さ2.621m・重量1,272kg、厚さ0.15mmの18k金板で、鱗の枚数は112枚、金重44.69kgもあります。雌は高さ2.579m、重量1,215kg、鱗126枚、金重43.39kgです。

名古屋のもうひとつの白銅は、日本一を誇る100m道路です。もちろん100mとは長さではなく、幅のことで、名古屋一の繁華街・栄を南北に走る「久屋大通り」と東西に走る「若宮通り」の2本です。100mすべてが車道

というのではなく、片側4~5車線の車道の中央はグリーンベルトで、公園やテニスコート、公営駐車場、災害時の避難場所にもなっています。いかに幅が広いかは横断歩道を渡ってみれば理解できるでしょう。信号が青になってすぐに走り始めても反対側にたどり着くのは大変です。信号が点滅を始めてから走るなどという芸当はとてできません。100m道路が作られたのは、戦後の戦災復興区画整理の防災対策の一環でした。当時は車の往来がほとんどない状態でしたが、数十年後にはクルマ社会になり、幅の広い道路が必要になるといった、「先見の明」のある人たちのおかげでこの広い道路が作られたということです。

現在、愛知では「愛・地球博」が開催されています。会場は長久手会場と瀬戸会場に分かれています。話題の冷凍マンモスや120カ国に及ぶパビリオンは長久手会場です。名古屋市営地下鉄の種が丘駅からリニエモーターカー)を利用するか、名古屋駅から直通のシャトルバスを利用すると便利です。夏休みにぜひ、訪れてみてはいかがでしょうか。

◎白銅(株)名古屋営業所
所在地:名古屋市中村区名駅三丁目16番22号名古屋ダイキビルディング1号館2階

